

新聞はさまざまな記事を通して、国・政治、社会などに対し、暮らしの問題を伝えたり、社会的な課題を訴えたりしています。それは新聞の果たす役割でもあると考えます。いくつか挙げてみます。

- 1 旧弊・差別を排除し民主社会を支え、明るい社会を支援します。
- 2 社会への木鐸・警鐘であり、悪いところを指摘し是正を促します。
- 3 弱者や社会の底辺に生きる人へ温かい光を当てます。
- 4 国や政治・政党の番人でもあり、不正等を指摘したり防いだりします。
- 5 新聞は第四権ともいわれ、三権（司法権・立法権・行政権）に対して目を光らせます。

最後に、新聞活用の教育的な意義について、まとめておきます。

- ①新聞は「生きた教材・身近な学習材」－教科書は企画・編集から発行そして児童・生徒の手に届くまで数年かかります。他の教材（副教材）でも1年近く掛かってしまいます。新聞は夕べの出来事、夜中の事件が翌日の朝刊で取り上げられます。記事が新鮮、つまり生きています。また、生きた現実のこと、事実が記事になっています。教科書を補う大切な教材です。
- ②新聞は「小さな図書館・動く百科事典」－情報・知識などが詰まっています。学びの宝庫で、新聞を読むことは、学びそのものです。小さな、ということばには、小回りがきくという意味も含まれます。
- ③新聞は「情報の玉手箱・知恵の泉・宝島の地図」－「?」「!」に満ちていて、学びの上でとても大切な知的好奇心を育みます。
- ④新聞は「社会に開かれた窓・世界に向けたアンテナ」－社会と世界のことを知る上で新聞は欠かせません。
- ⑤新聞は「人生と社会の縮図・時代と世相を映すカガミ」－新聞には、いまの多くが映し出されますし、第1面は歴史の秒針といわれます。また、生きるためのヒントを与え、生きる力を育む上でも欠かせません。
- ⑥新聞は「学力向上のよきアシスト」－ここでいう学力は基礎学力であると同時に、応用学力でもあります。基礎学力を身に付けるためには、繰り返しと継続が大事であり、日々発行・配達される新聞に勝るものではありません。
- ⑦新聞は「家族を結び付けます」－新聞の話題を通して、家族の会話・対話が生まれ、団らんをもたらします。これを私はファミリートピックスと名付けます。

(鈴木伸男・全国新聞教育研究協議会顧問)